

SDGs 経営導入・産業活性化ネットワーク委員会
(みたか SDGs 経営ネットワーク)
令和7年度の取組について

市内事業者が将来に渡って持続的に成長・発展し続けることを目指すため、令和5年度から「SDGs 経営導入・産業活性化ネットワーク委員会(通称:みたか SDGs 経営ネットワーク)」を組織し取組を開始した。

最終年度となる令和7年度のテーマは「SDGs 経営 実践と発信・発展へ」として、各委員が「SDGs 取り組み状況確認シート」に基づく自社分析を経て、SDGs 経営を実行する年とした。また、各委員の取組状況を市ホームページにて公開するなど対外的に PR を行った。

1 市内事業者視察兼ヒアリング

(1) 日程

令和7年8月1日

(2) 視察先

株式会社 文伸

所在地：東京都三鷹市上連雀一丁目12番地17号

(3) 参加者数

4人(事務局含め)



【まとめ】

令和6年度に視察を行った同社において、再度社内視察の他、事前に同社が作成したSDGs 取組状況確認シートの内容をもとに取組内容のヒアリングを実施。ヒアリングの内容をもとに、8月30日(土)に開催した『SDGs 経営を会社の成長力に！実践型勉強会』で、先進企業の取組事例として紹介した。同社での積極的かつ多様な取組やSDGs 経営を重視した経営の姿勢を再認識し有意義な機会となった。

2 勉強会

『SDGs 経営を会社の成長力に！実践型勉強会』

(1) 日程

令和7年8月30日

(2) 会場

三鷹産業プラザ7階 701会議室

(3) 参加者数

11人(事務局除く)

(4) 講師



日景 聡氏（中小企業診断士）

(5) テーマ

ア なぜ、私たちの世界に SDGs が必要なのか

イ SDGs によってどんな可能性が生まれるのか

【まとめ】

参加委員は「SDGs 現状取組状況確認シート」を基に自社の取組を確認し、2 グループに分かれて課題や事例を意見交換した。講師から人権保護や環境対策に関する具体的事例や改善のポイントが紹介され、エコアクション 21 認証、労働環境改善、地域貢献活動などをテーマに、企業規模や業界特性に応じた対応の重要性を確認。地域貢献活動が企業イメージ向上や従業員の健康促進につながることも示された。勉強会では「SDGs 宣言書」の作成・公表を進めることで、実践的取組への一步を踏み出した。

3 取組報告会（各委員による SDGs 宣言）

3年間にわたる活動の成果として、委員会メンバーが SDGs 宣言を行った。

(1) 日程

令和8年2月2日

(2) 会場

三鷹産業プラザ7階 704 会議室

(3) 参加者数

13 人（事務局除く）

(4) アドバイザー

日景 聡氏（中小企業診断士）

(5) SDGs 宣言書作成事業者

ア 株式会社 スガヌマ

事業内容：機械工具や設備の販売、修理・メンテナンス

<SDGs 達成に向けた取組>

環境：廃棄物の適正管理や発生抑制を徹底し、地域環境の保全及び循環型社会に貢献します。

社会・地域貢献：地域活動や教育支援を通じて、地域文化の発展と暮らしやすい環境づくりに努めます。

社会・地域貢献：地域防災や教育支援、産業振興などの社会貢献活動に継続的に取り組みます。

イ 有限会社 ケイエスレーザ加工

事業内容：金属レーザ加工、ステンレス製品の製造・販売

<SDGs 達成に向けた取組>



人権・働き方：業務効率化の徹底により残業ゼロを実施し、働きやすい職場環境を目指します。

環境：高圧電力を24時間監視し、デマンド値を適切に管理することで効率的な電力使用に努めます。

経済成長：展示会への出展・参加を通じた情報収集等により、売上の維持・向上につながる活動を行います。

ウ 株式会社 MAX Link

事業内容：電子、電機機器の設計開発、製造及び販売

<SDGs 達成に向けた取組>

人権・働き方：安全、衛生に配慮した労働環境整備を推進します。

製品・サービス：出荷検査に加え修理・代替対応により、安心して安全な信頼される製品を提供します。

組織体制：経営方針、法令順守の意識を共有し、順法精神の社内定着を図ります

エ 有限会社 大山製作所

事業内容：精密切削加工、溶接、組立

<SDGs 達成に向けた取組>

人権・働き方：就業規則の周知及び教育、定期的な昼食会等での社内コミュニケーションを促進します。

環境：化学物質管理者の指導によるリスクアセスメントの実施及び化学物質の適切な管理運用を行います。

環境：グリーン購入、廃棄物の適切処理及び分別リサイクルを徹底し、環境保全に努めます。

4 成果総括

- ・3年間の活動を通じて、SDGs は理念にとどまるものではなく、中小企業が直面する経営課題の解決に役立つ、実践的な考え方であるという認識が共有された。
- ・事業者に加え、学識経験者や金融機関、学生など多様な主体との対話や、先進事例の視察、体験型ワークショップを専門家からの助言を受けながら重ねる中で、委員の意識は「負担の大きい取組」から、「企業価値の向上や人材確保、組織力の強化につながる経営の手法」へと変化した。
- ・カードゲームやSDGs取組状況確認シートを活用することで、自社の取組状況や強み・課題を分かりやすく把握でき、具体的な行動につなげることができた。
- ・宣言書の作成や市ホームページでの情報発信を通じて、SDGs経営を実践し、対外にPRしながら継続的に発展させていくための共通の基盤を築くことができた。